



図4. モン・サン・ミッシェル修道院への導入路に一時停車、ここから少し先に駐車スペースがある。

レストランにはいろいろと気軽なランチメニューがある様で、皆それぞれの料理を楽しみながら、坂の途中のレストラン、その窓から見晴らす大西洋、大海原の風情を楽しんでいる様でありました。



図5. 最上階へ向かう坂道の両側には土産物店、レストランが軒を連ねている。



図6. 屋上広場 子供たちはいつとき遊び場として過ごせた模様、右向うに見える建物の内部がロマネスク風の廻廊と芝生グリーン広場を構成している。

坂道を登って行き、ほぼ最上階部と思しきスペースに図6の様な広場風の一角があり、子供達などはいつとき、遊び場として確保できた気分で、修道院を楽しんでいる様でした。

この“遊び場”から少し歩いたところに廻廊があり、それはロマネスク調アーチで構成され、又その内側は芝生で敷き詰められて、屋上のグリーン廻廊を構成している様でありました。

又、修道院の内部には図8の様な騎士の像などが建てられており、八世紀に創建された修道院の歴史の深さを思い起こされる内容でありました。

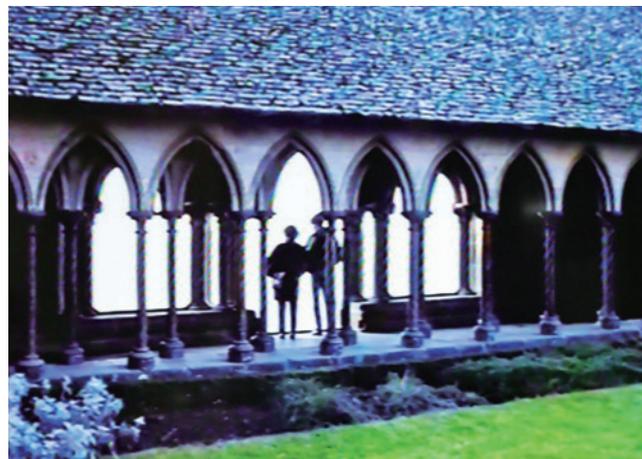


図7. ロマネスク風の廻廊とその芝生絨毯で構成された廻廊と中庭



図8. 院内の騎士の像

修道院内部を一通り目に納めた後、この現代の修道院の様子を心に刻みつ、あの坂道を下り、海に面して西隣り“城塞の都市サン・マロ”へと駒を進めました。

サン・マロ

モン・サン・ミッシェル修道院を立ち、大西洋に面した城塞の都市「サン・マロ」を訪れました。堅固な城壁で囲まれ、17世紀までフランス最大の港として繁栄していました。「国を護るのはこうしてやるんだ」と、当時のこの都市を構築した為政者の“国、国民を護る”という強力な意志を感じさせるに十分な城塞都市でありました。

今、Google Mapで見ると、中枢部は堀でも護られており堅固な城塞都市である旨改めて思った次第。

ここにいつきたたずみ、波の音を静かに聞き入る時間を持ちました…防波堤の上を走り回る子供たちの姿を目にしながら。

そしてやおら、今夜泊まるポントルソンの町へと少しの間車



図9. サン・マロの城壁



図10. サン・マロの海岸沿いの要塞の様子

を進めた次第でありました。

なお、このコタンタン半島の辺りは緯度的には、日本近傍で言えば、樺太の中程位置です。この12月ではさぞかし極寒の地ではなからうかと思われるのですが、積雪があるでも

なく、ごく普通の冬の衣装で過ごせています。これはとりもなおさずメキシコ湾流のおかげなのでしょう。

参考までに、この冬のフランス国土一周の旅で雪や凍れる河湖を見たのは南仏ニースを出てフランスアルプスに差し掛かるころから、グルノーブルへ抜ける辺りでした。

なお、宿のあるポントルソンの町はそれほど大きくない様でしたが、調べてみると当時でも人口4400人でありました。

私の郷里の町は限界集落へと進んでいることもあり、気になって更に調べてみると。この町の人口変遷は以下の様でありました、参考までに・・・；

3500人/1975、4400人/1990、4100人/2000、3600人/2015で、我が郷里の人口は7900/1975、7697/1980、4259/2015と下がり、人口減少傾斜は非常に大きい。

実は、これは私の、のちの宿題なので参考資料にする予定です。

静かな町にその宿 HOTEL DE LA POSTE を探し当て、そのあと、町を歩きながら夕食を求めた小さなレストランで一息つきました。今日の走行はシェルブールの町から220km程度でした。(続く)



図11. 宿のあるポントルソンに着き、ウインドウショッピングする家族

最後の同窓会を終えて

昭和49年度 電気
奈良政暁

令和6年10月13日(日)に高専祭(蒼阿祭)に合わせた校内見学および富岡町のホテル石松で8期電気(昭和49年度卒業)同窓会を開催いたしました。出席者は同窓生18名+奥様3名でした。ちなみに8期電気同窓生は42名(大学受験へのチャレンジもあり卒業時32名[内1名は機械工学科4年生へ編入 当時そういった制度はなく、携わった先生方は大変だったでしょう])で、既に

7名が鬼籍に入っております。

卒業して50年の節目であり、大半が既に古希を迎えた年に母校の校内見学を兼ねた同窓会を、気候の穏やかな時期に開こうと思い、2月下旬に高専事務局へ相談に伺ったところ、「今年は、10月に高専祭があるので当日であれば比較的自由に学内見学ができそうだ」との提案をいただきました。

8期電気はこれまでも徳島12回(第1回目はホテル石松、ありの道など)、京都2回(同級生の同僚が営む民宿)、滋賀2回(同級生がオーナーの焼鳥大吉)、香川1回(〇〇電力保養所)で計17回の同窓会を開いております。全員が現役高専生のおじいちゃん、おばあちゃん世代で、結構いい年になって来ており、クラス全体での同窓会は今

回が最後としてメール、往復はがきで連絡したところ、多くの方から賛同をいただきました。中には、開催日時（高専祭当日に懇親会又は前日に懇親会）が確定する前からホテル石松に宿泊予約を入れた気の早いメンバーもいました。（楽しみにしていただいてありがとう）

いよいよ10月13日（日）晴天 14時40分
図書館棟2F集合

同じフロアーには「悠久同窓会ブース」で歴代卒業アルバムの展示やOBとの面談コーナーなどが設けられているとのことなので、私は、少し早く14時頃に到着したところ、既に何人かは校内散策を終え図書館棟周辺に集まり始めておりました。

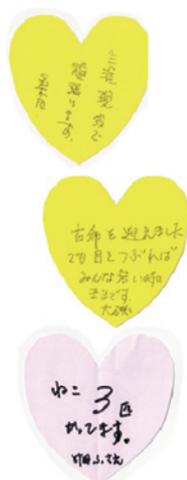
悠久同窓会や事務局のご協力により、2Fアクティブラーニング室を集合・休憩場所として、さらには飲み物までご用意いただいております。おかげで、顔を見るや否や気兼ねなく懇談が始まり、集合予定時間にはほぼ全員が集合していました。

15時頃噴水前に移動し、全員が集まったところで記念

写真撮影。残念ながら噴水は吹き出しが当時より弱く、我々の後ろに隠れてしまっていますが、青空に映える笑顔の素敵な写真を撮ることができました。

その後、中村教授（22E卒業生）の案内で校内、機械実習棟、寮1階ロビーや周辺をご案内いただきました。当初30分程度の予定でしたが、それぞれの場所で思い出話に花が咲いてしまい、結局1時間以上お付き合いいただきました。

- 卒業以来、50年ぶりに校内へ足を踏み入れ、とても懐かしい
- クラス名表示が「1年1組、2組・・・かわいい」（我々の時には1E、1M、1Cだったよな）
- 女子学生がなんと多く、制服も変わっている（心の声が漏れている：うらやましい）
我々の時代は、女子学生3～5人/全校生800人
- そう言えばヘリコプターが無くなっている！どこにあった？たしかこの辺り？いやあのあたり？
みんな記憶が曖昧…



- あの大きな電子計算機室（今のノートパソコンとどちらが優秀？）も無くなっている
このあたりにあったような???
- 機械実習室にまで冷暖房完備（当時は、土間打ちで夏暑く、冬寒かったナ〜）
- 寒歩（夜中に津乃峰の周りを歩き、北の脇で朝日を見て寮の食堂で朝食）やマラソン（学校周辺、西路見町方面を経由して13 km程度走って高専に戻る
ごく一部には途中の下宿先で休憩し、何食わぬ顔をして、高専近くで合流する者も居たそうかな？）も無くなったとのこと
- 谷山先生も入ったあの「男子浴槽・浴室」がそのまま残ってる
- 寮の中庭が狭くなっていると思ったら、北寮が建て替わったほか何棟も新設されたそうかな
さらに、女子学生寮もあるでないで（つい阿波弁が出てしまった）
- 正門付近のフェニックスは、地面近くから葉が伸びていたと思うのに、幹の部分が伸びて、かなり高い位置から葉っぱが出てる（このまま行くと徳島駅前のヤシの木のようになるのか?）

等にぎやかな声があちらこちらから
さらに、参加してくださった奥様方からは

- 機械実習室の掃除が行き届いていて、きれいね
- 学生が旋盤などを使って製作した、たくさんのネジを見て感動
- 結婚前の主人の青春時代が感じられた

等の声も聞こえてきました。

15時40分 脱落者（逃亡者）もなく見学会は無事終了
図書館棟2Fに戻り、後は「各自で校内散策し17時50分頃ホテル石松集合」ということで一時解散

しかし、30分後には、ほぼ全員がホテル石松のロビーに集合し、既に昔話が始まっていました。

何年か前までは、それぞれ時間が来るまで、あっちこち散策していたような……もちろん私も

懇親会には、奥様方を含め学校見学の全員が参加し、酔っぱらう前の17時50分記念写真を無事撮影。

続いて、出席番号2番の乾杯の音頭で宴会がスタート
その後、出席番号順に1分～3分の予定で近況報告をしていただきましたが、私自身が順番案内を間違ったり、予定時間関係なくおしゃべりが続くなど、予定はあつてないような・

宴会での会話は、卒業アルバムや昔の同窓会の写真を見ながら、互いの健康状態の確認から始まり

- 「お前は、この回参加してないな」
- 「いやいやここに写つとるぞ ちゃんと参加しとるやないか」
- 「今と髪型がだいぶ違つやないか 髪がなくなつとるぞ」
- 「シャンプーしやすいように剃つてるだけやぞ」
- 「ほら ここに（ほんの少しの髪が）ちゃんとあるぞ」

など卒業から50年が経っており、何十年ぶりかに会う仲間もいるにも拘わらず、若かりし高専時代にタイムスリップし、阿波弁丸出しのにぎやかな声があちこちから

2時間半の「竜宮城での宴」は、あっという間に終了予定の20時30分が訪れ、玉手箱の煙と共に現実世界に引き戻されることとなりました。次回と同窓会について事務連絡するとともに、互いの「健康で長生き」を誓い無事お開きとなりました。

—【事務連絡】—

今回をもって、クラス全体での同窓会は最後となりました。次回は、新たなステージ（一応「天国」の予定）での開催を考えているが、既に先発隊（H.H君、H.N君、M.H君など）が派遣され、会場の場所取りも終わっているだろうから、決して急がず、間違っても誰かにそそのかされて「地獄」へ行くことが無いように

なお、話し足りなかった数名は、ホテルの一室に集まり名残惜しんでいたようですが、多くは疲れから早々に床に入った模様。何人かは、翌朝早く目覚め、食事前に、北の脇で満天の星空を眺め、朝焼けや日の出を満喫したり、ホテル周辺を散歩したようです。

今回の同窓会の出欠集約に際し、「同窓会に参加したいが、残念ながら体調不良で参加できない」という連絡が多く、改めて「健康」の大切さを考えさせられました。

健康であつてこそ、旅行やゴルフ、健康のため(?)の週2～3日のアルバイトができるということを再認識しました。

最後になりましたが、校内見学に際し長時間お付き合いいただいた中村教授、集合・休憩場所として図書館2Fに一室を用意して下さった悠久同窓会役員の皆様、こまめな事前打ち合わせ・学内調整いただいた事務局の四宮様はじめたくさんの方に大変お世話になりました。ありがとうございました。

阿南工業高等専門学校の今後ますますの発展をお祈りします。

最後に、

／ 8E バンザイ !! ／

阿南高専一期会 「喜寿を祝う会」開催

一期会事務局（昭和42年度機械）

高橋重之

令和6年10月29日（火）17:30から、JRホテルクレメント徳島18階スカイフロア「ベルビュー」にて阿南高専一期会「喜寿を祝う会」を開催した。

まず「一期会」の経緯についてお話をさせていただきたい。阿南高専の昭和38年（1963年）入学者を会員対象とし、学校入学から45年経過した人生の節目60歳（還暦）を迎えるにあたり、一期 林岩男、二期 林政憲の両氏（奇しくも両林）が合同還暦同窓会の開催を企画し、この機に一期会を正式に立ち上げた。当初は悠久同窓会員名簿、人脈などで可能な限り在処調査するも、学校卒業後40年の歳月は長く、すでに物故者（1割強）、海外赴任、転職など行方不明者も多く、正味会員人数・約100名が始動ベースとなった。このうち、第1回一期会スタートの「還暦の会」参加人数は、全国各地から参じた46名となった。その後の一期会参加人数は、第2回前期高齢者の会（65歳）44名、第3回古希の会（70歳）43名と安定した参加人数が続いた。そして次の予定、第4回後期高齢者の会（75歳）がコロナ禍によって順延となり、今回の「喜寿を祝う会」を迎えた。さすがに70歳超から7年間のブランクは大きく、今回参加者は「27名」と激減（4割減）した。主な不参加要因は、①体力／大病リハビリ、腰膝関節痛、手足しびれなど、②気力／遠くに出たくないなど、③財力？／先立つ物、の3点であろうか…。

以上が「一期会」のこれまでの経緯だ。



さて、それでは「喜寿を祝う会」についての報告。

開始冒頭、今回特別参加の「悠久同窓会 横手会長」のご挨拶。悠久同窓会の熱心な普及活動に感謝！

まず本会は、いつも拙い小生の司会で始まる（僭越ながらと言いたいところだが、他に誰も成り手がなく多分死ぬまで永久司会か？（笑））

本会進行中は、すべて同窓仲間達であるため、垣根なくお互い呼び捨て（敬称略）で進めることとし、かしまらず「無礼講の会」をモットーとする。また70歳を過ぎてくると、参加できない理由は多々あるが、まずは自分の足で遠路参加できたことに全員で喜びを享受・感謝しスタートする。これまでの始まりは物故者への全員黙祷がお決まりのコースだったが、本会「喜寿を祝う会」の主旨よりお湿りを避けてパスし、林岩男世話人代表挨拶・井内哲也世話人の乾杯発声で元気に明るくスタートする。続いて司会より、いつもの独断と偏見？指名で「参加者の近況報告」へ進み、最後は残念ながら参加できなかった会員の「返信はがき記載の近況報告」抜粋を披露する。特筆は「関東・関西悠久同窓会」を会長として長年支え運営し今も後方支援に尽力され、現在は「東京・関西阿南ふるさと会の会長」を担い奮闘している、喜多明徳、宇野浩両名が遠路参加し、有意義な活動の近況報告は、まだまだ一期会員も老け込む訳にはいかないと大いに勇気付けられた。

一次会の予定2時間は、あっという間に過ぎ、まだまだ積もる話も尽きないが、和田健史副代表の中締めとなる。

続いて直ぐ二次会へ。いままで秋田町歓楽街の店を貸し切りで騒いだ元気も？さすがに寄る年波には勝てず、移動なしの楽な同ホテル同階隣室の、スカイバンケット「銀河」に再結集する。菅生久男世話人の乾杯発声でリスタート、一次会からの尽きぬ話が続き（持病の医者通い、年金或いは財テク自慢、日常の年寄の暇つぶし談義など）、佳境は往年全国各地ネオン街で鍛えた自己満足のカラオケが次々と続く。最後は西川公昭世話人の中締めで、お開きとなる。尚、今後の活動方針として、林代表より10人世話人会活



阿南高専一期会「喜寿を祝う会」 令和6年10月29日 於 JRホテルクレメント徳島

【集合写真】

上段左：横手久典悠久同窓会長、小林敏夫M、張野広美M、竹林賀鶴雄E、千葉一夫E、藤川正良M、川田周次M、喜多明徳M、石田徳平E、井内清治E

中断左：河野順次E、宗重力M、遠藤春雄M、鶴羽正幸M、里木正明M、中西克幸M、庄野新一M、若山吉行M、西川公昭M

下段左：郡貞雄M、菅生久男E、宇野浩M、高橋重之M、林岩男M、和田健史M、井内哲也M、藤重勝M、西本親志E

動を定期開催・継続させ、生きていれば次の「傘寿の会（80歳）」での再会を期し、願わくは、最後の2人（誰が残るか不明？（笑））になるまで一期会を続ける決意で楽しく嬉しい「喜寿を祝う会」を終える。

私見として前述の生い立ちより、一期生は兎にも角にも上から指示されることを嫌い、競争心が非常に強く負けず嫌い、頑な人間、他人の話を聞かず唯我独尊・自己中のな人達が多いと思うが…？当初は少なからず違和感も有ったが、年輪を重ね聞きなれてくると不思議と何か面白くなり、心地良さを感じる類稀な仲間と思うのは私だけなのかな（笑）…？

今後の思いとして、今や人生100年、本年2025年には団塊世代すべて後期高齢者突入、5人に1人が75歳以上を占める超高齢化社会を生きていく時代、それには、歳相応の若さを保つ「アンチエイジング」の実行がとくに大

事と思っている。（アンチエイジング3つの簡略要素：①招かれる会は出る、②人を招く、③あらゆるものに恋をする）最たるものとして、「一期会」の未永い継続、2014年に立ち上げし10年経過した「親睦悠久同窓ゴルフ会」の更なる発展と継続（現在：森正志7M幹事など「悠久会思いの共有仲間」が中心に積極活動し、会員登録120名規模に成長）、また本丸、「悠久同窓会」の今後一層の発展など思いは尽きない。

最後に個人的には、今のIT&AIなどデジタルをこよなく愛するオヤジだが、一方「人とのリアル面談」でなければ得られないことも数多くあると思っている。この思い伝言を、できればより多くの「悠久同窓会員の後輩諸氏、特に若手次世代の人達」に少しでも承継していただければ幸甚だ。

開催しました 令和6年度 悠久同窓会総会

令和6年8月12日



悠久同窓会総会に出席された方々です。

8月12日（土）、悠久同窓会総会を開催しました。

悠久同窓会総会には、17名の卒業生の方に出席いただき、東武氏（17C）による特別講演「脱炭素社会実現に向けた環境貢献ソリューション」も開催されました。

オンラインからも関東支部の高橋保人さん（7M）、新居秀明さん（6E）が参加されました。

また、総会終了後に、同時に開催されていた名誉教授会定例会を終えた名誉教授の先生方との合同食事会を行いました。

ご参加いただきました皆様、どうもありがとうございました。



東武氏講演会



名誉教授の先生方との食事会

拓土会報告

拓土会会長
湯 城 豊 勝

阿南高専には「悠久同窓会」と称する同窓会がありますが、「拓土会」と呼ぶ同窓会もあります。土木工学科1期生（全体では5期生）が卒業した昭和47年に設立されたので、かれこれ半世紀以上の歴史があり、その後建設システム工学科、建設コースと改組・改名するに伴い、卒業生には順次加入してもらいました。

土木系学科は人間関係を大事にする学科です。なぜなら、地球相手の大きな仕事をやるから、仲間意識を持たなければ工事ができないと、在学中より教えられてきました。そのような意味合いもあったのでしょうか、草創期の毎年4月には「土木杯」と名の付いた、学科内での新入生歓迎の学年対抗ソフトボール大会がありました。また1月になれば「寒歩（完歩・貫歩）訓練」と言って、夜の徳島、もしくは日和佐、遠い時には牟岐から徹夜で歩いたこともあり、仲間と共に根性を鍛える訓練もやっていました。世話をしてくれるクラスメートが作ってくれた豚汁や飴湯の味は今も忘れることはできません。最近では、このような行事をしようにも交通事情が許してくれないでしょうね。

卒業後は、学年を問わず卒業生同士で、また先生方との情報交換や近況報告を活発にしようとのことで、数年ごとに土木・建設系学科合同の同窓会を開くことにしました。



何度か開催するうち、定年退職の先生が出てくる年に開催しようとのことになり、それからは「第何回」とカウントし、退職記念パーティーとして謝意を表すことにしました。この方式にして、今年が第9回目になります。

ところで、今回は原則に反して退職の先生はいないので。その理由はコロナです。前回2018年の後、松保重之先生、堀井克章先生、笹田修司先生の退職の先生がいたにも拘わらず、同窓会を開くことができませんでした。コロナ禍が下火になった昨年1月から準備を始め、今度はインフルエンザに妨害されながらもなんとか実現できました。土木工学科1期～26期、建設システム工学科1～21期、建設コース1～6期、合計53学年、約150名が集まってくれましたが、いつもよりは若干少ない人数でした。

先生方12名も駆けつけてくれました。年齢86歳の神田睦先生もお元気な顔を見せてくれ、祝辞を述べてくれました。先生は若き28歳より、草創期の5年半、私たちに土木魂を教え込んでくれた兄貴分でもあります。有難いことに、同窓会が終わった後日、徳島新聞『読者の手紙』1月22日号にこのようすを紹介してくれました。会においては、会員相互のネットワークを仕事に活かしてもらおうと考え、氏名と勤務先を記した出席者名簿を配布し、名札も吊るしてもらいました。次回からは開催年度を分かりやすくするため、オリンピック年に行うことにしましたので、ロサンゼルス五輪を楽しみにお待ちください。



阿南高専第9回拓土会 令和7年1月4日 於JTBホテルクレメント徳島



阿南高専第9回拓土会 令和7年1月4日 於JTBホテルクレメント徳島

現役クラブだより

…体育部…

テニス部

テニス部は今年度より情報コース 太田健吾が主顧問を務めており、一般教養 中島一先生、建設コース 長田健吾先生に加え、新たに電気コース 後藤祐美先生、一般教養 藤原みずき先生が顧問になりました。現在 35 名（5年生 7名、4年生 10名、3年生 6名、2年生 5名、1年生 7名）の部員が活動しています。

令和5年12月～令和6年12月までの主な活動について、以下の通りお知らせします。今後もさらなる活躍に向けて日々取り組んで参りたいと思います。引き続きご声援のほど、よろしくお願い申し上げます。

◆四国地区高専春季テニス大会

(令和6年3月13日～14日、今治スポーツパークテニス場)

- ・男子シングルス 優勝 2I 鹿島颯人
- ・男子ダブルス 準優勝 2I 鹿島颯人・4C 浦 大輝
第3位 2E 大石敦士・1年3組 森山偉久
- ・女子シングルス 優勝 2I 岡久紋乃
準優勝 3E 宮内優衣
第3位 1年2組 福岡 凜

◆全日本選手権徳島県予選

(令和6年4月28日、むつみセンターコート)

- ・女子シングルス 準優勝 1年3組 曾我井光里

◆徳島県高校総体

(令和6年5月25日～6月3日、大神子病院しあわせの里テニスセンター)

- ・男子団体 第3位
- ・女子団体 ベスト4

◆四国地区高等専門学校体育大会

(令和6年7月12日～14日、尾道市因島運動公園テニスコート)

- ・男子団体 優勝
- ・男子シングルス 準優勝 3I 鹿島颯人
第3位 2E 森山偉久

- ・男子ダブルス 準優勝 3E 大石敦士・2E 森山偉久
第3位 5C 浦 大輝・3I 鹿島颯人
- ・女子シングルス 優勝 1年3組 曾我井光里
準優勝 3I 岡久紋乃
- ・女子ダブルス 優勝 2Z 福岡 凜・1年3組 曾我井光里

◆全国高等専門学校体育大会

(令和6年8月21日～23日、苫小牧市緑ヶ丘公園テニスコート)

- ・男子団体 第3位
- ・女子団体 準優勝
- ・女子シングルス 優勝 1年3組 曾我井光里
- ・女子ダブルス 優勝 2Z 福岡 凜・1年3組 曾我井光里

◆徳島県高校新人テニス大会

(令和6年10月14日～27日、大神子病院しあわせの里テニスセンター)

- ・女子シングルス 準優勝 1年3組 曾我井光里
- ・女子ダブルス 優勝 2Z 福岡 凜・1年3組 曾我井光里
(テニス部顧問 太田健吾)



全国高専大会



高校総体



四国高専大会



全国高専大会

…文化部…

吹奏楽部

コロナ禍が明け、入学式・卒業式の演奏が復活しました。一方、コロナ禍で試行した野外演奏の形は今年度も継続しています。

2024年度の主な演奏は次のようです。

○入学式（4月3日、阿南高専第一体育館）

「君が代」「校歌」「高嶺の花子さん／buck number」

○新入生歓迎コンサート

（4月25日、阿南高専フェニックス広場）

「The Seventh Night of July～Tanabata～／酒井格」
「HAPPY／Pharrell Williams」「高嶺の花子さん」

○もりのマルシェ（5月18日、杜のホスピタル）

「HAPPY」「高嶺の花子さん」「TEQUILA」「星条旗よ永遠なれ」

○七夕コンサート

（7月18日、阿南高専フェニックス広場）

「The Seventh Night of July～Tanabata～」「星条旗よ永遠なれ」「青と夏／Mrs.GREEN APPLE」

○蒼阿祭（10月13日、阿南高専フェニックス広場）

「青と夏」「星条旗よ永遠なれ」「魔女の宅急便コレクション」「マツケンサンバII」

○LIFE FES ～いのちのであい～

（12月14日、牛岐城趾公園）

「マツケンサンバII」「silent／SEKAI NO OWARI」「LAST CHRISTMAS／Wham!」

○総合文化祭（12月22日、ハイスタッフホール）

クリスマスソングをテーマとする合同演奏（学校別演奏はなし）。

「Jingle Bells」「CHRITMAS Happy Medley (We wish you a Merry Christmas・あわてんぼうのサンタクロース・赤鼻のトナカイ)」「White Christmas」「LAST CHRISTMAS」「クリスマス・イブ／山下達郎」「すてきなホリデイ／竹内まりや」「silent」「Subtitle／Official髭男dism」「Sleigh Ride」「SILENT NIGHT」

現在、28名で活動しています。今年度末には6名が卒

業しますが、また新たなバンドを形成し、豊かな演奏を目指したいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

（吹奏楽部顧問 錦織浩文）



蒼阿祭



LIFE FES



総合文化祭

茶道部

茶道部OB・OGの皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。茶道部は現在部員15名（5年1名、4年3名、3年2名、2年3名、1年6名）で活動しています。新型コロナウイルス禍の影響か、部員数は減少傾向にありましたが、1年生が6名入部してくれてその傾向に歯止めがかかったことは喜ばしいことです。

例年どおりに学寮の教養講座のお手伝い（月曜の夜）を中心に、毎週2回ずつ、高志会館2階和室で部員たちはお

点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林初音先生も来校されて、熱心にご指導いただいています。顧問は私（藤居）のほか、機械コースの大北裕司先生が引き続き担当しています。

以下、今年度の行事を報告します。今年度も恒例の春と冬のチャリティー茶会を実施いたしました。期間はどちらも2日間のみでしたが、常連の教職員をはじめ、多くの学生たちにご来会いただきました。

10月には、まず3日にシンガポールのリパブリック・ポリテク校からの訪問団を前にお点前を披露いたしました。16日には提携校であるドイツのオストフアリア応用科学大学からのご一行の前でお点前を披露しました。外国から来校なさった方々に Japanene tea ceremony を少しでも体験いただけて、部員らにも良い経験になったと思います。

11月の蒼阿祭については、今年もお茶会を開くことができました。昨年度は用意していたお菓子が足りなくなるほどの盛況で身構えていましたが、今年度は例年どおりのご来会数で少し拍子抜けしました。ただ、昨年に続いて仙台からわざわざ来てくださったOG やかなり以前のOG も顔を見せてくださり、楽しい会になりました。

12月には四国地区高専総合文化祭（香川高専詫間キャンパス主催）が観音寺市の働く婦人の家で開催され、日帰りでお茶席を実施することができました。昨年度は引き継ぎ不足で多くの忘れものがありました。今年度は若干の不備はあったものの、よく準備して良いお茶席ができたと思います。参加校は香川高専高松キャンパス・高知・阿南

の3高専でした。

以下、学寮の教養講座以外の今年度の茶道部の主な活動状況です。

- ・ 4月 春のチャリティー茶会（2日間実施）
- ・ 11月 蒼阿祭 お茶席
- ・ 12月 四国地区高専総合文化祭
（香川高専詫間キャンパス主催） お茶席
- ・ 1月 初釜チャリティー茶会
（諸事情により1日のみ実施）

部 長 吉田好花（建設コース4年）
顧 問 藤居岳人（一般教養）、大北裕司（機械コース）

例年どおりに和気藹々とした雰囲気のもとで部員はお稽古に励んでいます。今後ともOB・OGの皆さまにはご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

（茶道部顧問 藤居岳人）

プログラミング研究部

プログラミング研究部のOB・OGの皆様、お変わりなくお過ごしでしょうか。プログラミング研究部は昨年度に引き続き私（太田健吾）を主顧問とし、現在34名（5年生4名、4年生3名、3年生10名、2年生10名、1年生7名）の部員が活動しています。

さて、今年度は第35回全国高専プロコン奈良大会が2024年10月19日（土）～20日（日）に奈良県のなら100年会館で開催されました。今大会の課題部門では「ICTを活用した環境問題の解決」をテーマとして、持続可能な地球環境の実現を目的とした作品が募集されました。競技部門では「シン・よみがえれ世界遺産」と題して、文化財の修復をモチーフにした型抜きパズル形式の競技が行われました。阿南高専からは課題部門2チーム、競技部門1チームがそれぞれ書類審査による予選を通過し、本選に出場しました。

阿南高専の課題部門チーム「POOIーデジタル投票式ゴミ箱ー」は、QRコードを用いたシンプルな仕組みによってポイ捨てを減少させる画期的なシステムを提案しました。当日の審査では、情報コース3年生を中心としたメンバーでプレゼンテーションやデモンストレーションを披露し、プレゼンテーションの完成度の高さに加え、ポイ捨ての防止とゴミ箱の管理のスマート化、さらには一般企業のマーケティングまでをも巧みに融合させたアイデアが高く評価され、最優秀賞、優秀賞に次ぐ特別賞を受賞しました。阿南高専は課題部門で2年連続の特別賞受賞となりました。

課題部門チーム「節電だヨ！全員集合ー節電の実践と情報提供で意識を高めるシステムー」は、IoTデバイスによ

